

眼底検査を受けましょう

眼底検査には、体のほかの部位と関係した目の病気が現れていないか、失明の恐れがある目の病気がないかを調べる二つの目的があります。

眼底は直接血管の状態を見ることができる唯一の場所です。眼底の血管は腎臓や脳の細かい血管とよく似ており、これらの臓器の状態を推測するのに利用されます。

目の端の方にある病気は自覚しないことがあり、発見が遅れます。このため、目薬で瞳孔(どうこう)を開き、中心から端まで詳しく調べます。

目がかすんだり、線がゆがんで見えたりするなど、異常を感じたら、早急に眼底検査を受けてください。

自覚症状がなくても、強度の近視や糖尿病、高血圧、高脂血症などの症状がある方は検査が必要です。

また、失明原因のトップである緑内障や、加齢黄斑(おうはん)変性症などの発見にも役立ちます。

40・50歳の節目の年齢には、眼底検査を受けましょう。

平成21年3月

當麻 信子